

# 津ライスニュース 令和2年産第4報

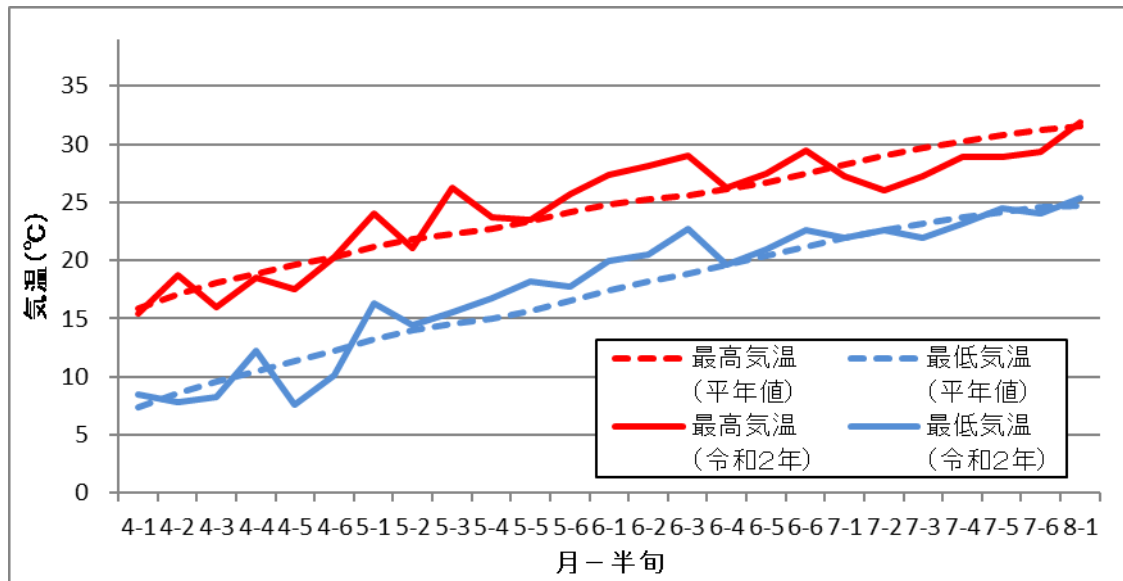
令和2年8月12日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

## 気象経過

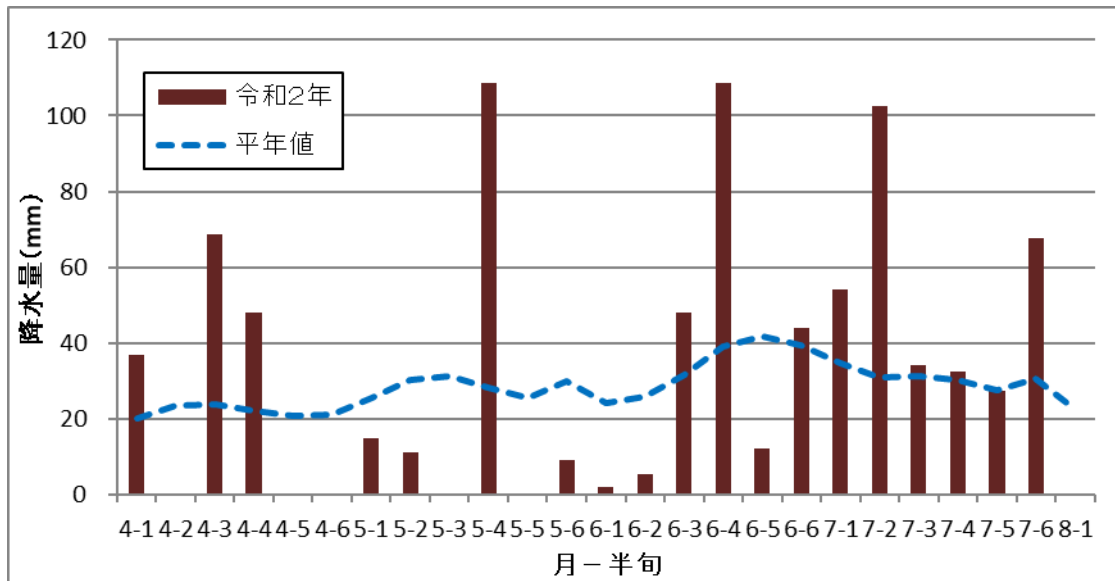
### <気温>

4月下旬は最低気温が低い日があり冷え込みましたが、5月～6月の気温は高く推移しました。7月に入ると一転して気温は低く推移し、特に最高気温は平年より2℃近く低くなりました。



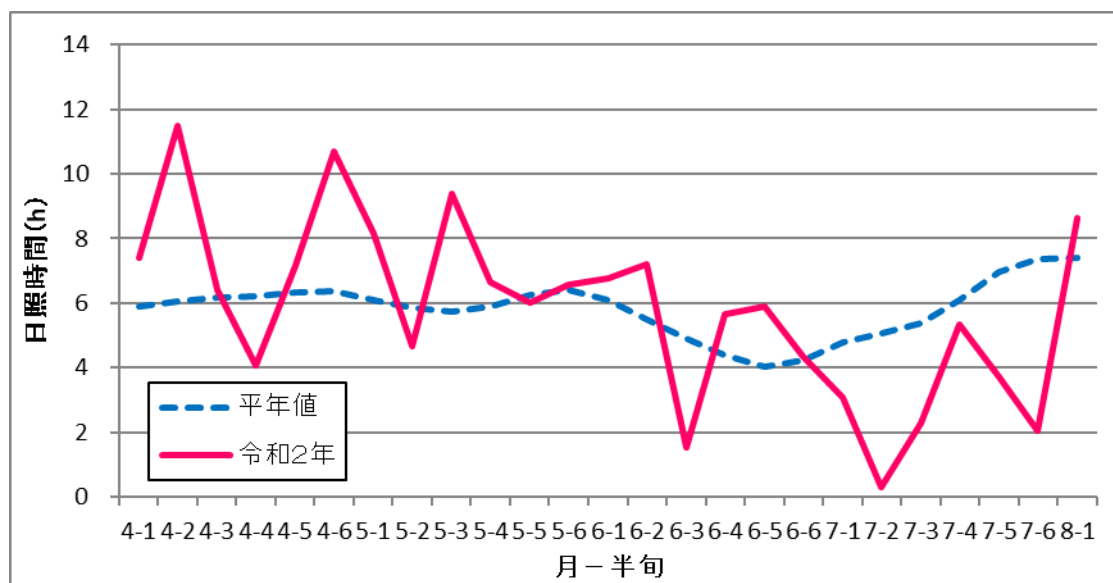
### <降水量>

4月中旬、5月中旬にまとまった雨が降る日ありましたが、6月上旬までは平年より降水量は少ない状況でした。6月10日に梅雨入りし、以降、7月末までの降水量は平年より多くなりました。



### <日照時間>

5月までは日照時間が多く推移していましたが、6月中旬以降、曇りや雨の日が多くなりました。特に7月に入ると天気の良い日が続いたため、7月の日照時間は平年の半分以下と少なくなりました。



### 生育の概況

6月までの気温が高く経過したことから、初中期の生育が進み、出穂期は平年より4～5日早くなりました。農業研究所(嬉野)作況田でのコシヒカリの出穂期は、7月10日(平年の出穂期は7月15日)となっています。7月の曇雨天や低温の影響等によって生育は停滞し、平年より若干早い程度になっています。

一部ほ場では、天気がすぐれない日が続いたことから、いもち病の発生が散見されています。また、斑点米カメムシ類を中心とした害虫の発生が多い状況です。

### ○水稲生育基準田の調査結果

【令和2年8月5日現在】

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m <sup>2</sup> )	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月18日	83.5	18.8	351.1	23.7	7月13日
	安濃	4月25日	89.6	18.1	290.0	17.4	7月19日
	白山	4月30日	88.9	18.9	230.0	14.1	7月23日

### ○水稲生育基準田の調査結果(過去の調査データの平均値)

品種	調査地点	移植日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数		出穂期
					(本/m <sup>2</sup> )	(本/株)	
コシヒカリ	殿村	4月19日	89.2	18.4	354.9	26.5	7月16日
	安濃	4月24日	83.4	19.0	265.6	17.3	7月20日
	白山	4月30日	93.5	18.4	341.6	21.3	7月27日

※殿村のデータはH27～R1の平均値

※安濃のデータはH28、H29、R1の平均値

※白山のデータはH30、R1の平均値

### ○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ(平年値(H22～R1))

品種	年度	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期
コシヒカリ	平年値(H22～R1)	85.7	18.9	403.6	7月15日

※移植日: 4月25日前後

## 今後の栽培管理

### <水管理>

- ・水稻の根数は出穂前20日頃に最大となり、出穂期には新根がほとんど出なくなり、水の溜めすぎは根の老化や根腐れの原因となります。出穂後から収穫7日前までの期間は間断灌水を心掛け、根に空気を供給しましょう。水をかける場合はなるべく夕方に行いましょう。
- ・早期落水は未熟粒や胴割れ米等の発生を助長し、玄米の品質低下が懸念されます。落水は収穫前7日以降としましょう。

### ※台風時の水管理

台風時はイネの蒸発散が盛んになり吸水量が多くなります。台風情報などに注意し、早めに深水湛水を行いましょう。深水湛水はイネの激しい振動を防ぎ、物理的損傷の軽減にも期待できます。また、台風通過後は快晴となることが多く、イネは茎葉の損傷を受け蒸発散が活発になりやすいので、台風通過後も数日間は湛水状態としましょう。

### <斑点米カメムシ類等対策>

出穂期になるとカメムシ類の本田への侵入が増加します。作期分散のために早生や晩生品種の導入が進んでおり、周囲より早く出穂したほ場や遅く出穂したほ場はカメムシ類が集まりやすく、特に被害を受けやすいので防除が必要です(ただし、成分回数や使用時期、特に収穫前日数に注意してください)。

### <適期収穫>

- ・穂の基部に緑色籾数が3~4粒程度残る頃が収穫適期です。また、コシヒカリでは籾水分が26~28%の頃が収穫適期となります。
- ・早刈りは未熟粒(青米や充実不足)の増加、刈り遅れは茶米や胴割粒の増加となり、いずれも品質が低下します。品質向上のために適期収穫を励行しましょう。

### ○水稻生育予測

【令和2年8月6日現在】

品種	移植期	出穂期の予測日	成熟期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	7月19日	8月24日	(0.9日遅い)
	5月15日	7月31日	9月6日	(1.7日遅い)
三重23号	4月25日	7月12日	8月20日	(3.5日遅い)
	5月15日	7月26日	9月3日	(2.7日遅い)
みえのゆめ	5月15日	8月1日	9月5日	(1.9日早い)
	5月30日	8月16日	9月19日	(1.7日早い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による生育予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10年の平均気温)を使用しています。

#### <乾燥調製>

- ・高温での急激な乾燥は水分ムラが生じやすく、胴割粒の発生が多くなり、食味の低下も著しいので、平均の毎時乾減率は0.8%を超えないようにします。特に立毛胴割れが生じている可能性がある場合は、毎時乾減率を0.5～0.6%程度とします。
- ・仕上水分は14.5～15.0%を目標とします。粳水分が高い場合や青未熟粒の混入が多い場合には、水分の戻り現象が現れます。粳水分18%程度で一度乾燥を停止し、粳同士の水分差を小さくしたうえで再度乾燥すると品質への影響が少なくなります。
- ・カメムシ類等による着色粒が多い場合は、色彩選別機により等級アップを図りましょう。

#### <収穫後耕起>

- ・収穫後、台風などの大雨の影響で稲わらの流出が問題となっています。
- ・大雨による稲わらの流出防止、漏生粳等の対策のため、収穫後できるだけ早く浅耕(5cm程度)しましょう。